

効率の良い留学について

グループ5

関根鉄朗, 尾崎紗恵子, Chaw Kyi Tha Thu, 戸山友香, 西川純恵, 森嶋素子

バックグラウンド

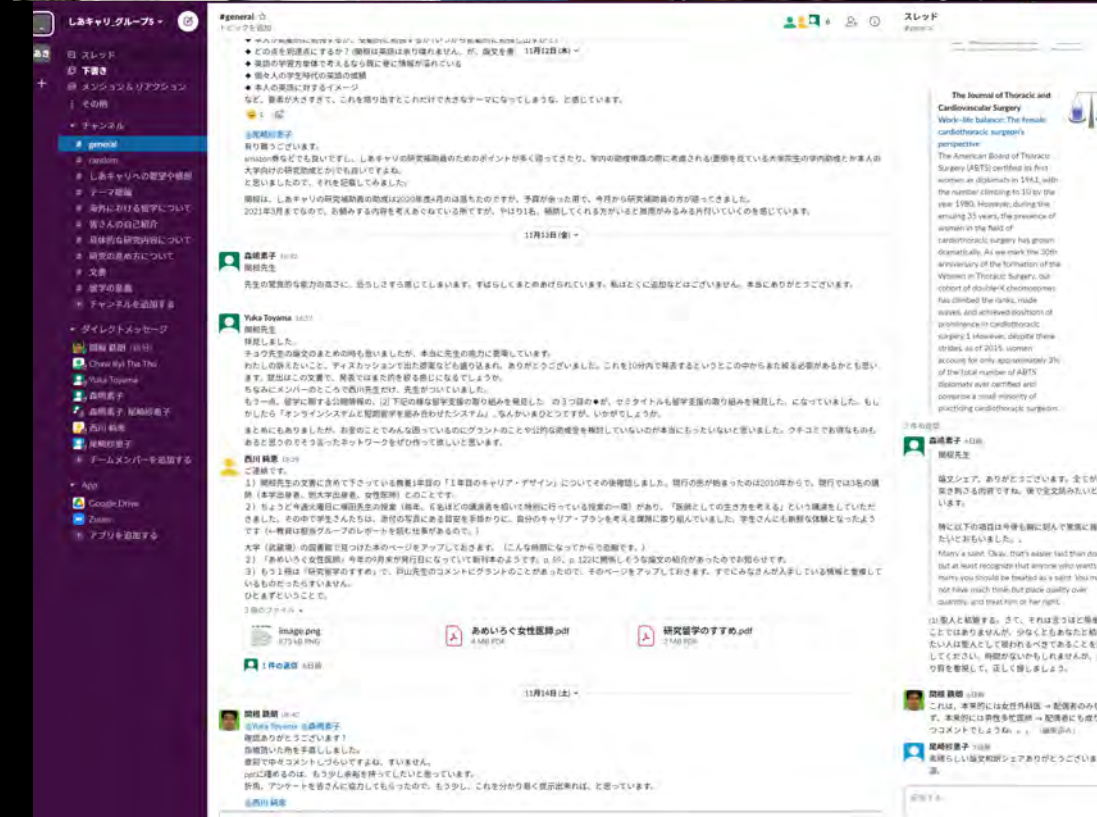
- **関根鉄朗** 2006年卒, 放射線科, 共働き, 5歳・3歳子持ち
- **尾崎紗恵子** 2010年卒, 皮膚科, 共働き, 8歳・3歳子持ち
- **Chaw Kyi Tha Thu** 2013年日本へ留学, 分子解剖学, 既婚
- **戸山友香** 2000年卒, 泌尿器科, 共働き 5歳・0歳子持ち
- **西川純恵** 英語教員,
- **森嶋素子** 2006年卒, 心臓血管外科, 共働き, 3歳子持ち

留学経験者2名、海外から国内への留学者ネットワークを持つメンバーあり、英語教員がメンバー

→ 効率的な留学の仕方についてをテーマに多面的な考察を

Project概論

- Slackでの情報交換、zoomでの定期会議
- 留学予定のメンバーなし
- “同僚が留学に行くためには?”を意識
- サブテーマ → 構成メンバー (キャリア中盤でワークライフバランスが重要となってくる研究者)同士の意見交換



行った事

- 論文情報・web情報の調査
- 本学の学生海外CCや留学医師の追跡調査
- 日本 → 海外、海外 → 日本への留学生へのアンケート
- メンバー同士のdiscussion

Study of factors related to the attitudes toward studying abroad among preclinical/clinical undergraduate dental students at three dental schools in Japan

Do you have experiences/ plans to study abroad?

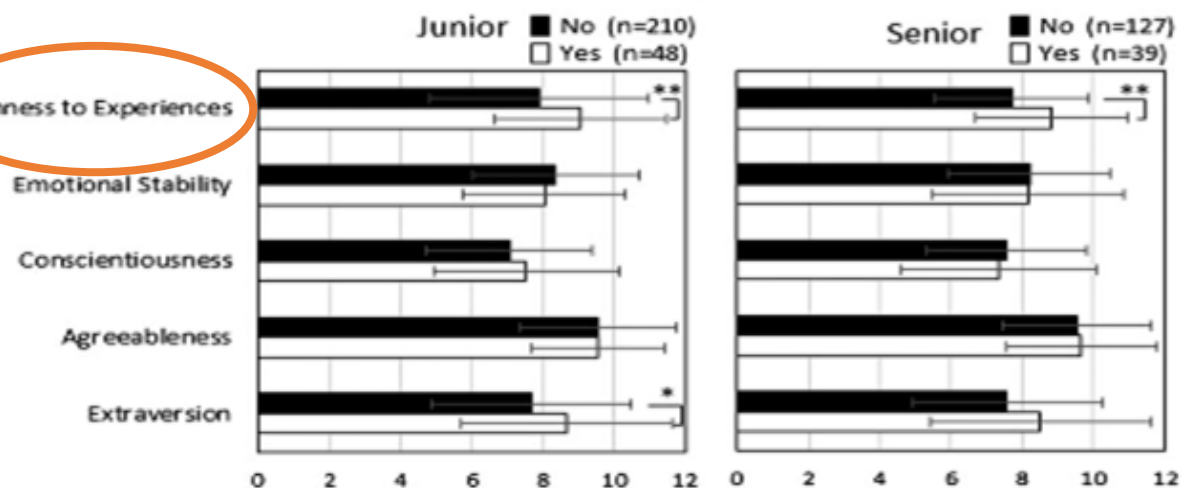
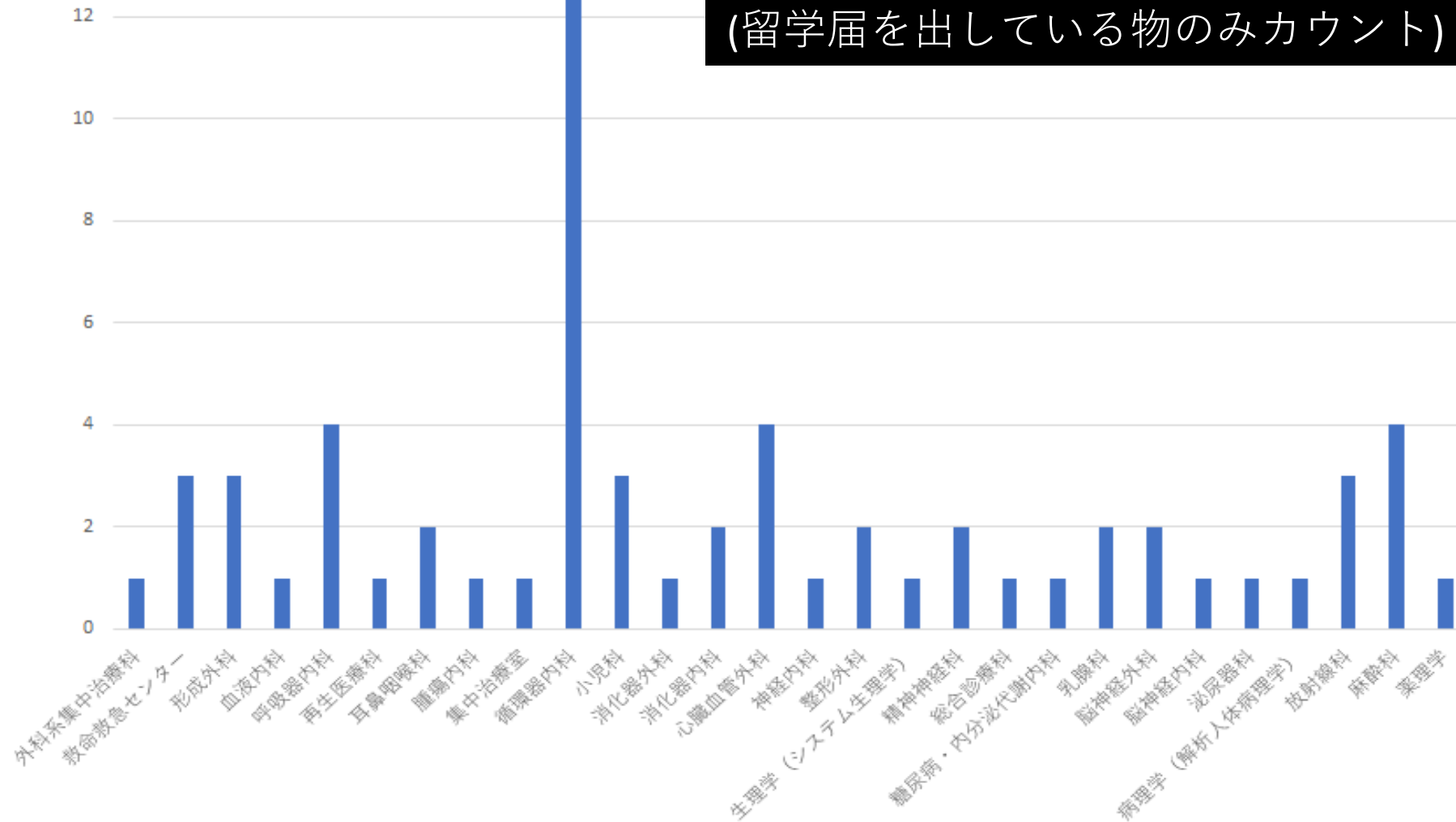


TABLE 2 Participants average scores with regard to concerns about studying abroad

	Junior Mean	Junior SD	Senior Mean	Senior SD	t	P value
Lack of language ability in daily life	5.60	1.48	5.96	1.21	-2.77	0.01**
Lack of language ability in academic fields	6.09	1.26	6.25	1.06	-1.41	0.16
The cost of overseas trip and living expenses	5.77	1.42	6.18	5.44	-0.14	0.89
Tuition fees	5.39	1.55	5.54	1.34	-1.13	0.26
Difficulties for the accommodation	5.03	1.50	5.13	1.40	-0.71	0.48
Higher quality of facilities and environment	4.53	1.32	4.82	1.28	-2.24	0.03*
Lower quality of facilities and environment	3.48	1.27	3.74	1.36	-2.01	0.04*
Lack of specialized knowledge	5.59	1.31	5.27	1.36	2.38	0.02*
Delay of the graduation	5.00	1.78	4.83	1.76	0.83	0.41
Complicated procedure for the application	5.18	1.50	5.28	1.33	-0.75	0.46
Lack of information to study abroad	5.28	1.25	5.28	1.33	-0.00	1.00
Worries about life in a foreign country	5.37	1.63	5.37	1.51	-0.00	1.00
Worries about the interpersonal relationship in foreign countries	5.31	1.69	5.24	1.55	0.42	0.67
No friends in foreign countries	5.31	1.80	5.35	1.66	-0.27	0.78
No benefits/meaning from studying abroad	2.91	1.73	3.45	1.82	-3.07	0.00**
No clinical training (participants only do observations)	3.97	1.50	4.63	4.85	-1.75	0.08

- 日本の3つの歯科大学生のJunior (2-4年目)とSenior (5-6年目)へのアンケート調査 (各250名程度)
- “Openness”な性格の方が留学に対する壁が低い
- 留学の上での一番の懸念は言語の壁
- Junior → Seniorになるにつれ、“言語の壁”、“留学に行く意義を感じない”のスコアが上昇
→ 学年が上がるにつれて、現実志向となり留学の壁をより強く感じる様になる
→ 留学のハードルを下げるには言語・生活面での心理的ハードルを取り除く事が有用

2014-2020年の留学経験者 72名の内訳
(留学届を出している物のみカウント)



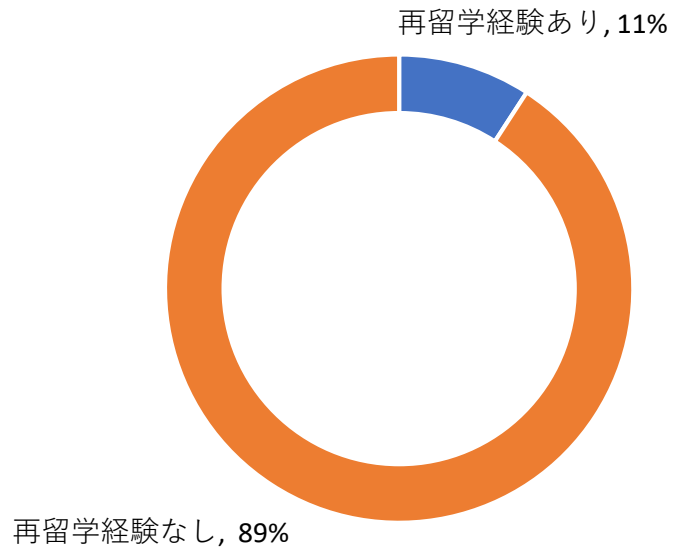
* 国際交流センター提供データ

教室間で留学経験者数に偏りあり

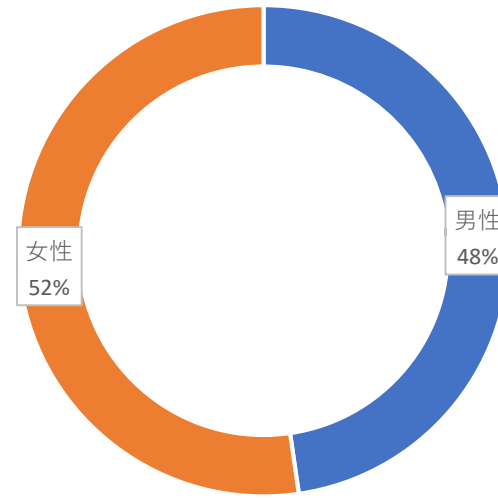
→ 留学情報格差があるため留学への心理的ハードルがある?

→ 大学単位での留学情報提供があれば留学の壁が下がる?

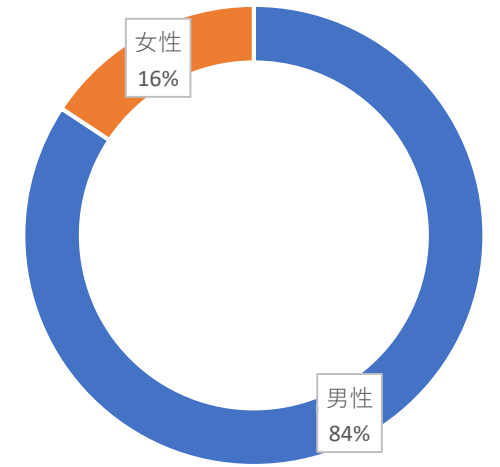
海外CCの再留学経験者
(109名, 2005-2019年)



学生海外CCの男女比
(109名, 2005-2019年)



外国留学医師
(72名, 2014-2020年)



* 国際交流センター提供データ

- 海外CC留学経験者の10%以上が再留学
→ early exposureによる留学への心理的ハードルの低下

- 海外CCは女性比率が非常に高く、女子医学生の留学志向は高い
- 留学医師の女性医師比率は著しく低い → ライフイベントとの兼ね合いの難しさ？

順調に新旧・卒業・研修できた場合・・・

- 4年生 CBT・OSCE
- 4年秋-6年 Clinical Clerkship
- 6年生 Post CC OSCE、国家試験
- 25歳 医学部卒業・初期臨床研修開始
- 27歳 初期臨床研修終了・専門研修開始
- 30歳 専門研修終了 専門医試験
- 32歳 サブスペシャルティ研修終了
- 33歳-34歳ごろ 医学博士取得

* 塚田先生の1年生向けの講義より抜粋

- 医師/研究者としての独り立ちは最短で**33-34歳頃**
- ライフイベントを考えると留学の**タイミング**が非常に難しい
- 効率の良い留学のためには**適切なキャリアパスデザイン**が不可欠

小括

- 留学志向は個人の性格的志向に影響
- 女子医学生の留学志向は高いものの、女性医師においてはライフイベントの関係か留学の壁が高い。留学に行きたいのに行けない人がいる
- キャリアパスデザインが重要だが、本学では公的には学部1年生授業のみ
- 留学情報に触れる事で壁を下げる事が出来るが、教室/医局間格差が存在する
- 留学の“壁”は医学部高学年になるにつれ実感を帯びてくる

→大学単位での留学情報提供は？

→高学年や初期研修医の段階でのキャリアパスデザインの情報提供は？？

ライフプラン&留学についてメンバーからの意見

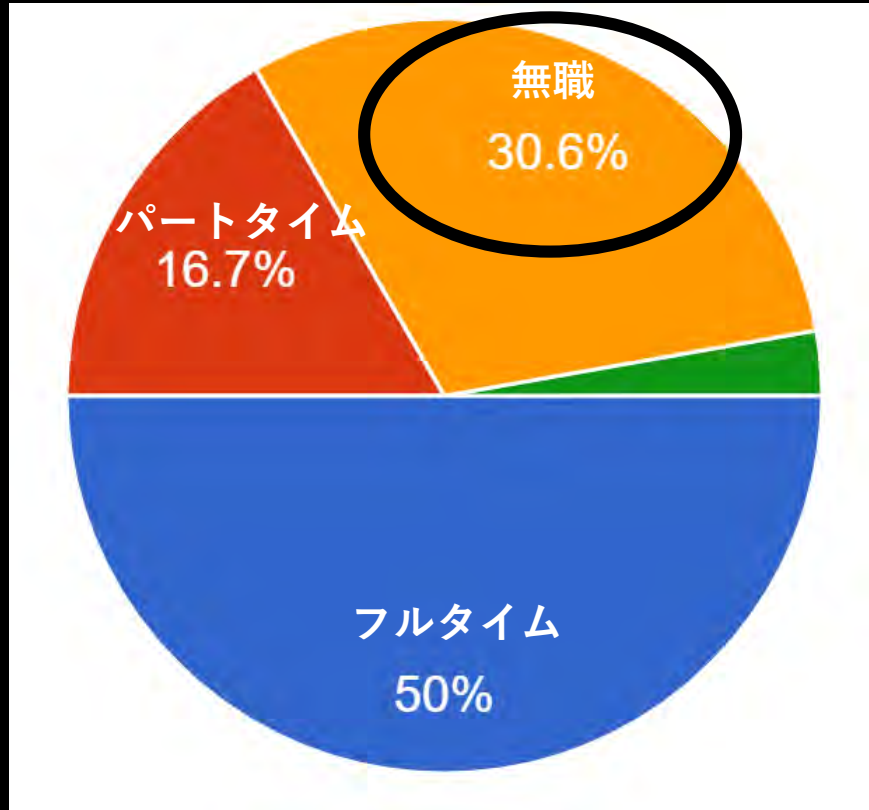
- 昔は留学志望があったが、今は現実味が無い
- お金が解決付けば留学に行く
(例: 配偶者の失職に見合うメリットが無い)
- 子供の適切な教育環境が整備出来れば留学に行く
(例: 留学先での生活環境が不明、シッター代/教育費が必要)

留学生アンケート

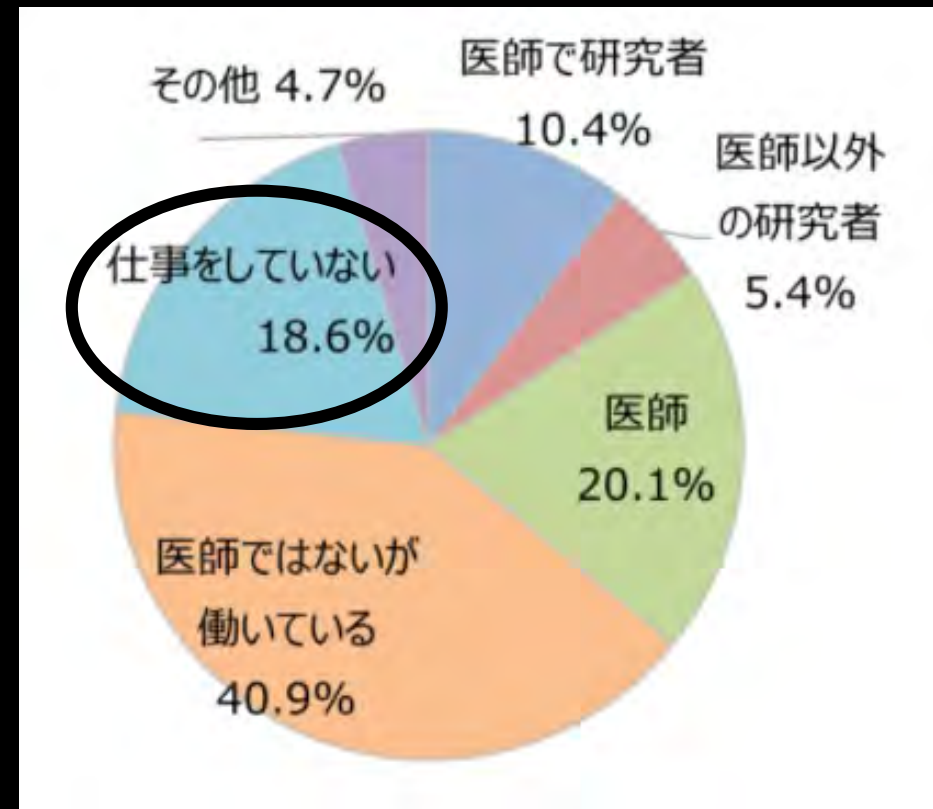
- 国内 → 海外留学生アンケート
 - 全37項目のアンケート
 - 回答者は38名
 - 留学開始年齢の平均は36.3歳
 - 留学時は92%が結婚済み、76.3%が子供を同伴
- 海外 → 国内留学生アンケート
 - 同一内容のアンケート
 - 回答者は83名 (48名が医療従事者)
 - 留学開始年齢の平均は24.7歳
 - 留学時は84%が独身

留学と配偶者の職業の兼ね合い

国内 → 海外留学前の配偶者の職業



本学教職員全体の配偶者の職業



* じゃあわせキャリア支援センターアンケートより抜粋

- 留学経験者では本学の平均と比較して、配偶者が無職の割合が大きい (30.6% vs. 18.6%)
- 留学と同時に22.9%の配偶者が退職
- 72.6%が留学に当たって配偶者との調整が必要と回答

家族帯同留学の特徴は？

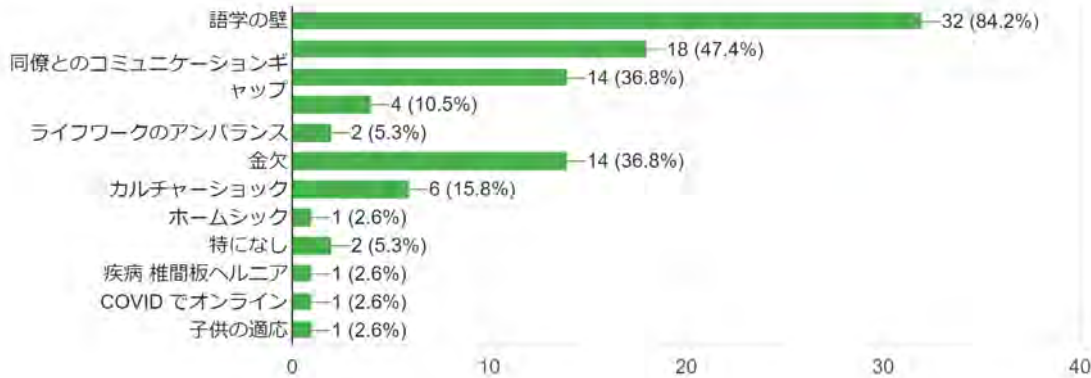
S3Q4. 留学中に苦労したことは何ですか？*（複数回答可）

国内 → 海外留学者 アンケート
(92%が既婚・76%が子供を同伴)

海外 → 国内留学者 アンケート
(84%が独身)

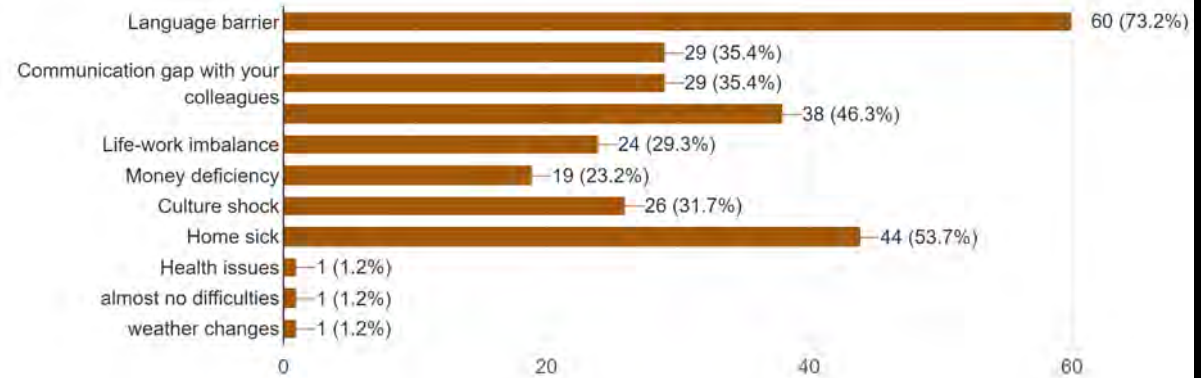
S3Q4. 留学中に苦労したことは何ですか？*（複数回答可）

38件の回答



S3Q4. What kind of difficulties did you have during study abroad?

82件の回答



留學生活の質は家族帯同で改善

- ワークライフバランスの問題は感じない (5.3% vs. 29.3%)
- ホームシックは殆ど感じない (2.6% vs. 53.7%)

配偶者の職歴を加味した上での留学の形



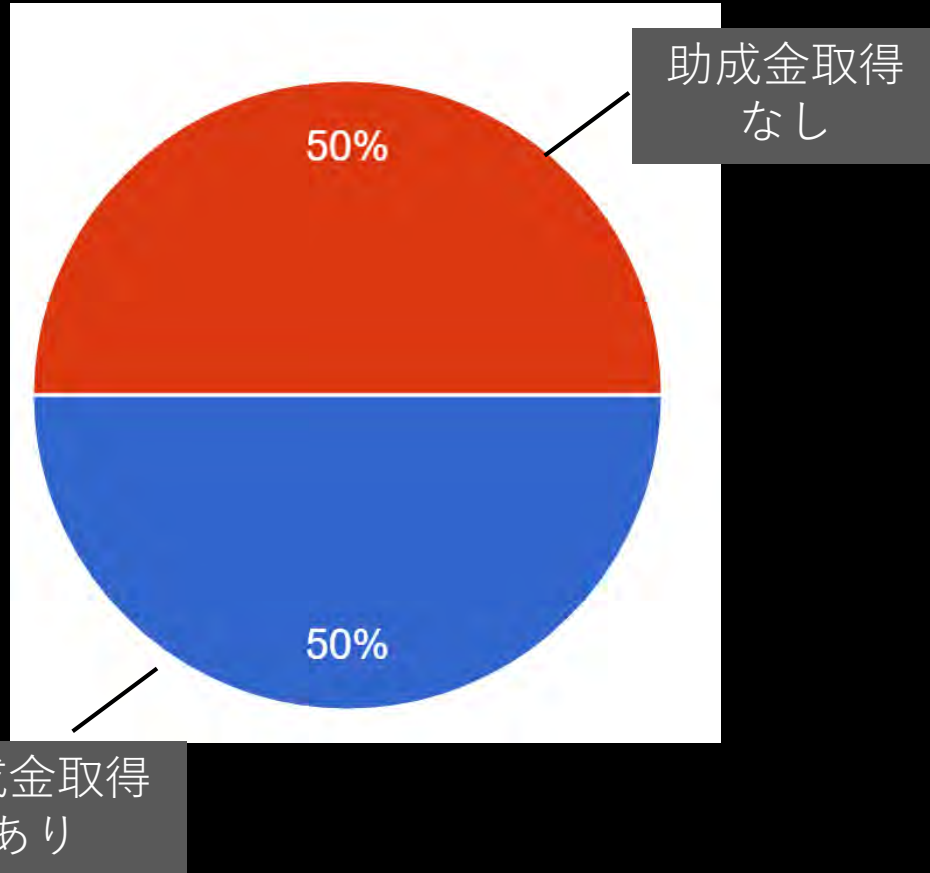
AIFS Study Abroad | Programs and Locations

<https://www.aifsabroad.com/>

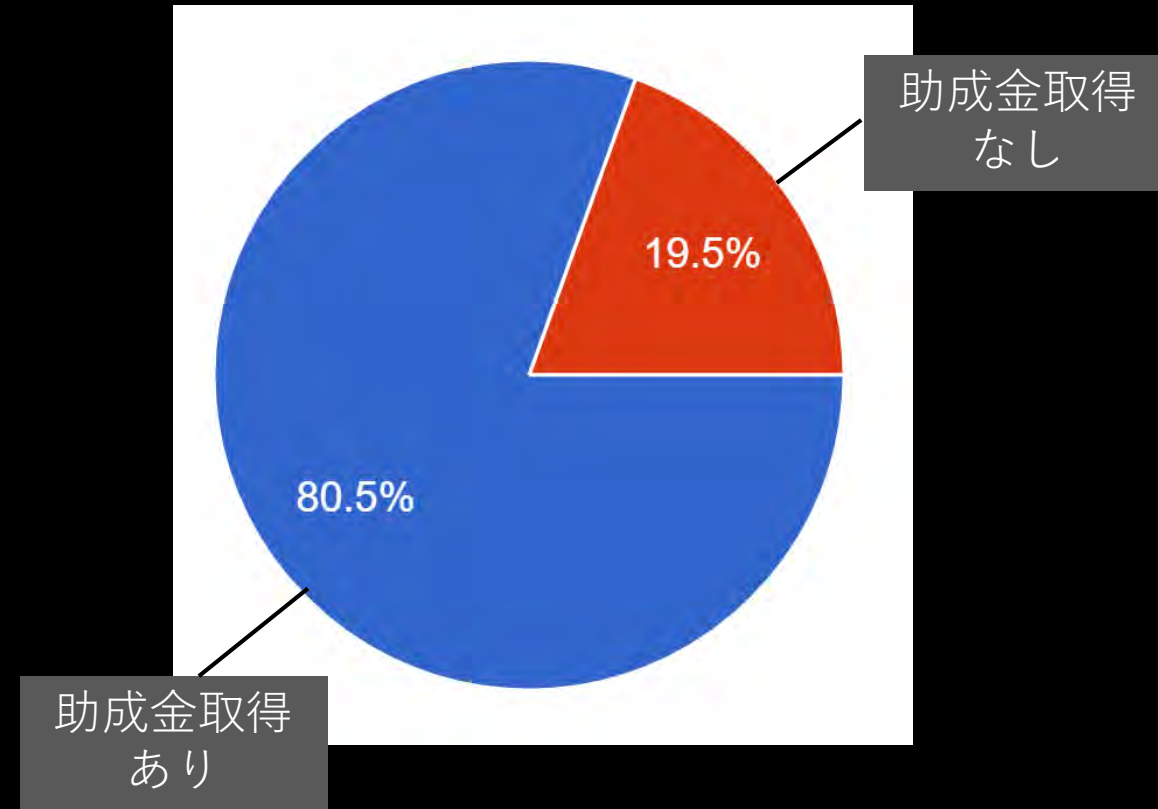
- Virtual study abroad: Webでの座学+短期留学 (2週間-1ヶ月)の組み合わせ
- メリット → 留学生活費の削減、研究者同士のネットワーキング、ワークライフバランスの両立
- デメリット → 留学先の文化や習慣を経験し難い、公衆衛生や機械学習など、分野が限られる

留学助成金の取得状況

国内 → 海外 アンケート結果



海外 → 国内 アンケート結果



- 医師の海外留学は海外 → 国内留学に比して留学助成金取得率が低い (50% vs. 80.5%)
- 金銭面の負担が過重になっている

医師の留学助成金取得

- 留学助成金取得のため研究計画書を書くよりはバイトをした方が早いと
考えてしまう医師が多い？
- 留学のタイミングで適切な業績が蓄積されていない
→ 留学助成金取得を意識した研究キャリアパスを。指導医にも意識付け。
- 留学助成金取得のメリット
 - 非課税所得 (額面では倍近く稼ぐ必要がある)
 - 業績の獲得
 - 自らの学術活動の振り返り・言語化
 - (取得出来れば)自己肯定感の獲得
- 留学助成金取得時にはgrant writingの経験者は少ない
 - ライバルが強くない (適切な指導が成されれば、チャンスはある?)

小括

- 単身の方が留学は容易
- 社会的事情がクリアされれば留学によるワークライフバランスの改善やホームシックの防止など、家族留学の方がbetter
- 配偶者や子持ちでも様々な留学の形がある
 - 一般企業の帯同システム
 - 短期留学との組み合わせ
- 留学助成により、更に“効率的な留学”が可能に？
 - 早期の段階から留学助成金取得を意識した業績の蓄積
 - 適切な留学助成情報
 - Grant writing指導

留学に行く事の意義

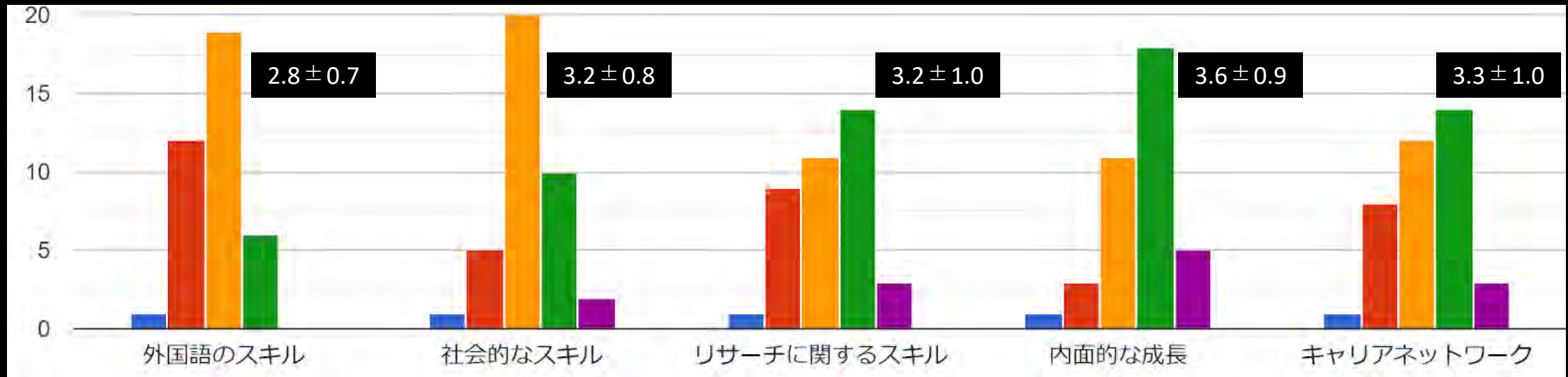
- そもそも何のために留学に行くのか？どの様に後輩をencourageするのか？
 - “エラ” くなるため？
 - 論文をいっぱい書く？
 - 英語を話せる様になる？
- 大学・教員として、何処まで留学者のsupportをするのか？
 - 留学によって得られるのが留学者個人のメリットでしかないなら、大学や教室がそれをsupportする事は業務としての必然性があるのか？

留学により得られた事は

海外 → 日本
(n=82)



日本 → 海外
(n=38)



- “**内面的な成長**”が最もスコアが高い
- “**外国語スキル**”、“**社会的スキル**”との比較で有意差*あり * paired t-test + Bonferroni補正

まとめ

- 留学により内面性の向上が得られる
 - 教室を超えて大学全体への波及効果大きい
 - 大学病院の魅力は劇的に低下。自己の成長が得られる機関としての魅力の発信が不可欠
- 何が留学を妨げているか？
 - (特に女性医師において)留学志向があってもライフイベントとの兼ね合いが難しい
 - 情報が無いが故の心理的ハードルの高さ
 - 助成金取得率が低く、金銭的負担が過重に見込まれている
- 効率的な留学を広めるために必要な取り組みは？
 - 留学に向けた適切なキャリアパスデザインへの意識を
 - 学内での情報公開 (例: ビザ取得のストラテジー、助成金情報の公開、留学経験者へのアクセスなど)を

最後に

- 本projectを通じ、“自分が若い頃にこのような情報提供があったら良かったな”との意見が多かった
- 本projectの参加メンバーの多くが共働き+未就学児持ちで、留学どころか日々の業務をこなすのが精一杯
- 本projectに参加したメンバーの潜在的なmotivationの一つは“留学に行く様なキラキラした人”では無く、キャリアの大変な時期にいる教員に**しあわせ** **キャリア支援センター**や**大学本部**にもっと寄り添って欲しいとの思い
- 時短助教や産休/育休の推奨は第一段階に過ぎ無い(マミートラックに陥る危険性)。継続したキャリア支援やモデルケースの確立が必要。
- 教室/医局単位ではマネジメントの変革に限界がある。大学単位での働きかけを切にお願いしたいです。